

わたしたちにも できることがある

— 知ることからはじまる国際協力 —

国際理解教育サポートプログラム

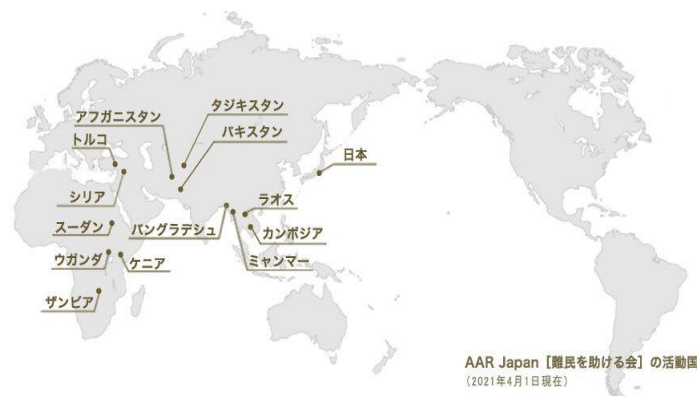
40年以上の歴史を持つ国際NGO、AAR Japan [難民を助ける会] が、豊富な経験を活かし、魅力的な国際理解教育の企画をご提案します。

- ◇ 現在、新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、一部のプログラムをオンラインでお受けしています。原則として学校側がホストとなって講師を招待していただく形をお願いしています。詳細は担当までお尋ねください。
(2020年7月10日)



AAR Japan とは…

1979年に日本で生まれた、政治・宗教・思想に偏らない幅広い活動を行う国際NGO。紛争や災害などの困難に直面した人々へ、「困ったときはお互いさま」の精神で直ちに支援を届けています。これまで65を超える国・地域で支援を展開し、現在は14カ国で活動しています。



AARの活動国（2021年4月現在）

世界では紛争や武装勢力による暴力が後を絶ちません。その結果、世界では約8,000万人の人々が難民生活を強いられています。

「自分が難民になるなんて、思ってもみなかった。」南スーダン難民の女性はそう語りました。「シリアで今起きていること、私たちのことを忘れないでほしい。」と語るシリア難民の少女。私たちと同じ平和な日常を送っていた人々の生活が、どのように断ち切れ難民となっているのか「シリアにいるのがもし、私だったら」「私の家族だったら」「私の友達だったら」……。世界中で支援を必要としている人々の現状を、日本の子どもたちが「自分ごと」として考えられる視点と想像力を、私たちの支援活動の現場の声を通して養っていただければと考えています。

企画の具体的な内容は学校とAARが相談しながら作り上げていきます。
まずはお気軽にご相談ください。

● 活用の機会

AARの国際理解教育サポートプログラムは以下のような活動にご利用いただけます。

- 総合的な学習の時間（全学年）
- 社会科の授業の発展学習として
 - 一例として、以下の内容に関連付けてご利用いただけます。
 - 小学校：国際交流、国際協力、平和な国際社会の実現
 - 中学校：（地理）世界の様々な地域、（公民）私たちと国際社会の諸問題
 - 高校：（世界史A）「持続可能な社会への展望」、（地理A）「世界の生活・文化の多様性」「自然環境と防災」「現代世界の諸地域」、（現代社会）「共に生きる社会を目指して」
 - 全学年：SDGsと解決したい社会問題を結びつけるアクションプラン（行動計画）の作成
- 文化祭・学園祭、課外学習、修学旅行（班別行動）など

● プログラムのご案内

1. AAR スタッフの講演

世界14カ国で活動するスタッフがそれぞれの活動についてお話しします

AARスタッフが国際協力に関する幅広いテーマを、お話や映像などで分かりやすく説明します。テーマ・内容・構成・講演・時間などはご希望に合わせて調整いたします。

※スタッフが学校に伺うことも、皆さんに当会事務所にお越しいただくことも可能です。

※所要時間は30分～90分程度（応相談）

※当会事務所で実施する場合、スペースの都合上、参加者数は40名までとさせていただきます。



2. ワークショップ

世界の問題を身近に感じられるようになります

小学生向けから高校生向けまで、さまざまなテーマでワークショップを行います。講演・出前授業との組み合わせも可能です。

対象：	小学生から高校生
所要時間：	30分～90分（応相談）
テーマ：	緊急支援、難民支援、地雷・不発弾対策、障がい者支援、感染症対策、東日本大震災緊急・復興支援、国際協力とNGO、世界の子どもたち、女性と国際協力、SDGs・・・など、様々なアクティビティを組みこむことも可能です。
過去の講演テーマ（一例）：	
小学校：	「いろいろな国と、いろいろな人々、そして私たち」
中学校：	「いま知ってほしい、地雷のこと・クラスター爆弾のこと」
高校：	「難民支援のさまざまなアプローチ」

A SDGs ワークショップ ーキミの得意技で世界を変えようー (対象：小学校高学年～高校生)

例えばサッカーや料理、理科実験やお絵描きなど、自分の得意なことや好きなことでSDGsの目標達成に貢献できることを、クイズやワークショップを通じて学びます。



B 「私が難民になったら」

(対象：小学生～高校生)

「自分が難民になったらどうしよう？どういうことに困るんだろう？」紛争や災害のため故郷を追われた難民の方々が抱える困難を、避難生活を迫体験しながら理解します。



C 「トモダチが難民だったら」(対象：小学生～高校生)

クラスにやってきた難民かもしれないトモダチは、何に困っているだろう？どうやったらいっしょに楽しく学校で過ごせるのだろう？日本はかつて、1万人以上のインドシナ難民を受け入れました。グローバル化がますます進む現代、多文化共生は日本の新たな課題になっています。難民などの国際問題を子どもたちが身近に感じられるワークショップです。

※BとCを組み合わせて行うこともできます。

D 地雷探しゲーム (対象：小学生)

日本では馴染みのない地雷・不発弾の問題。AAR オリジナルの地雷探しゲームを通じて、「自分の家の近くにも地雷があったら？」と、地雷・不発弾の問題を自分のこととして考えてみます。



E みんなちがうね、でもいっしょだね (対象：小学生～中学生)

足に障がいがあるため、車いすで学校に通うカンボジアのサルーンくん。サルーンくんの生活を学びながら、障がいがある子もない子も一緒に学び遊ぶために、自分たちにできる国際協力は何かを考えます。

F 地震発生！チャレンジ緊急支援

(対象：小学校高学年～中学生)

自然災害や紛争が発生した際に国際 NGO が行う「緊急支援」を疑似体験します。普段は見えづらい災害の現場で必要なことや、国際協力の仕事への理解が深まります。



G のぞいてみよう！世界の子どもたちの1日（対象：小学生）

開発途上国の子どもたちの「いつもの生活」を体験するワークショップ。南スーダンの子どもたちの水汲み、アフガニスタンの子どもたちの遊びなどを体験しながら、世界にはいろいろな文化・暮らしがあることを実感します。

3. アクティビティを組み合わせて

学校での事前・事後学習と組み合わせれば、さらに実践的な学習に

プログラム組み合わせ例（テーマ：難民問題）

① 事前学習

↓ 本やホームページなどで、世界の難民問題や、国連やNGOの活動、AARの活動について調べ、質問をまとめる。

② AARスタッフの講演・出前授業・ワークショップ（45分）

↓ トルコでのシリア難民支援事業、ケニアでの南スーダン難民支援事業に携わるAARスタッフが、NGOの支援活動について話をする。支援現場の映像、難民のインタビュー映像を観たりしながら、理解を深める。または、テーマに合わせたワークショップで意見を交わし、自分の考えを述べ、チームごとの意見をまとめる。
質疑応答（10分）

③ 事後学習

↓ 出前授業の内容・感想を書いたり、「自分たちにできること」をまとめて発表しあう。

④ 協力活動

クラス・学年・学校単位で、募金活動、バザーなどを企画し、実行する。

4. ボランティア体験（対象：中学生・高校生）

AAR事務所で簡単なボランティアに参加できます。国際協力活動に不可欠な郵送物の封入作業などをお手伝いいただきます。実施時期・回数・参加人数・時間・作業内容などをご相談に応じます。

参加人数：3名～20名程度

場所：AAR事務所（アクセス詳細は2ページ目をご覧ください。）

所要時間：30分～90分（応相談）

※講演との組み合わせも可能です。

5. 児童・生徒さんの皆さんの質問に答えます

教科書やインターネットだけでは分からないことにもお答えします。

事前・事後授業や普段の授業の中で生徒の皆さんが調べ学習をする際に、

- ・電話やメールなどでのお問い合わせ
- ・インタビュー取材・・・などを通じ、AAR スタッフが丁寧にお答えします。

※実施に当たっては、必ず担当の先生より事前にご相談ください。

● 依頼から実施までの流れ

①申込書のご送付

プログラム実施の**1ヵ月前まで**に、郵送、FAX、E-mail のいずれかで申込書をお送りください。

※申込書は当会のホームページからもダウンロードできます。<http://www.aarijapan.gr.jp/school/>

※プログラム内容に関するご相談はいつでもお電話や E-mail で承ります。

②詳細のご相談

AAR よりご担当の先生にご連絡します。プログラムのテーマや構成、必要な準備、費用等について、ご相談しながら詳細を決定します。

③当日

各種プログラムを実施します。

● 費用について

講演・ワークショップにつきましては、実施一件につき、人数に応じて以下をめやすにご寄付または謝金をお願いいたします。

6人まで：7,000円～、7人から20人まで：10,000円～、21人以上：15,000円～

※AAR は皆様からのご寄付により、支援活動を続けることができます。ご理解くださいますよう、お願いいたします。また、実施にかかる交通費・宿泊費、教材・資料の送料などは、実費のご負担をお願いいたします。

学校でできる国際協力

以下のような生徒のみなさんの自主的な活動も、AARはサポートしています

国際協力のテーマについて調べ、発表する

関心のある国や分野についてより深く知る、そして知ったことをひとに伝えるといったことも、大切な国際協力です。文化祭などで発表することで、さらに理解が深まります。

写真パネルなどを貸し出しできます。詳しくは次ページのの教材一覧をご覧ください。

チャリティ・バザーを行う

AARで販売しているチャリティグッズや、家で眠っているもの、生徒たちの手作り商品などを集めてバザーを行い、売り上げを寄付します。

⇒ミニタオルやキーホルダーなど、AARのチャリティグッズの委託販売を承ります。品物や販売方法については別途ご相談ください。



募金活動を行う

文化祭・学園祭で、街頭で、募金活動をしてみませんか？

- AARでは、募金の使い道（例：シリア難民支援、ミャンマーの障がい児支援、東日本大震災被災者支援など）を指定していただくことができます。
- ご協力いただいた学校には、募金の使い道をご報告させていただきます。また、ホームページ上やAARの会報にて、広く会員・支援者の皆さまにご紹介させていただいております。

身近なもので国際協力

AARでは、未使用切手、書き損じハガキ、未使用テレホンカード、商品券、古本などの寄付を受け付けています。未使用切手はそのままで、書き損じハガキは郵便局で新しいハガキや切手などに交換し、会報の送料や通信費として活用しています。お送り先などの詳細はお問い合わせください。



マイレージのご寄付



修学旅行などで貯まったマイレージを国際協力のために生かしてみませんか？デルタ航空のマイレージプログラム「スカイウィッシュ・チャリティ・プログラム」でためたマイレージでAARの活動を支援することができます。マイレージご寄付のお申し込みはEメールで行っていただけます。

- Eメールにお客さまの氏名、スカイマイル会員番号、寄付先（AAR）、寄付されるマイル数、電話番号をご記入の上、delta.bids@delta.com のアドレス宛に送信してください。

教材一覧

1. AAR 事業紹介写真（貸し出し）

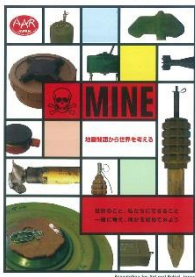
テーマ別に当会の事業を紹介する写真を貸し出します。写真はB3サイズ（ラミネート版）です。写真の内容・テーマや貸出枚数についてはご相談ください。

ご用意できる写真のテーマ例：

- AARの主な活動
- 地雷問題
- 障がい者支援
- 東日本大震災被災者支援
- 難民支援
-など

3. 各種パンフレット（無償でご提供します）

※数に限りがありますので、ご希望の部数が多い場合は調整させていただきます。



■「MINE：地雷問題から世界を考える」
地雷・不発弾、クラスター爆弾とは？何が問題なのか？
様々なデータや、地雷対策の取り組みを分かりやすく解説しています。中学生以上むけ。
A5・14頁



■「障がいのある人もない人も共に生きる地球社会へ」
途上国の障がい者を取り巻く現状を解説するとともに、AARの活動を例に、さまざまな障がい者支援のあり方や最近の潮流を紹介しています。高校生以上向け。A5・14頁



■「STOP KILLER ROBOTS
この世界に人を殺すロボットはいらない！」
人による命令や判断なしでロボットが自動で判断して標的を選択し、人を殺す・・・キラーロボットの開発が進みつつあります。このような兵器の問題点を分かりやすく解説しています。
21cm×21cm・10頁

写真・DVD 貸出申込／パンフレット希望の際は：

- ① 申込用紙（別紙）に希望教材名と必要数を記入し、AAR宛に郵送またはFAXでお申し込み下さい
- ② AARよりご連絡の後発送いたします

貸出教材のご返却は：梱包のうえ、AARへ郵送ください

※いずれも送料はご負担をお願いいたします

■AAR Japan [難民を助ける会]

東京事務局へのアクセス

JR/東急目黒線/東京メトロ南北線/都営三田線「目黒」駅東口から徒歩2分



■お申し込み・お問い合わせは

AAR Japan [難民を助ける会]

啓発（国際理解教育）担当 穂積、大久保、石原

Tel : 03-5423-4511 (月~土 10:00~18:00)

Fax : 03-5423-4450

E-mail : rikai@aarjapan.gr.jp

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 7F